

第257回 都市懇サロン レポート	『自動運転バスの社会実装』		
講師	BOLDLY 株式会社 代表取締役社長兼 CEO 佐治 友基 さん	開催 日	2022年2月8日（火） 18:00～20:00
講師 プロフィール	2009年 上智大学経済学部卒業後、ソフトバンクモバイル株式会社（現ソフトバンク株式会社）に入社 2016年 SB ドライブ株式会社を設立し、同社代表取締役社長に就任とともに、先進モビリティ株式会社社外取締役に就任 2020年 実証実験フェーズから実用化フェーズへの移行を宣言し、社名をBOLDLY(ボードリー)に変更		
お話の概要	<p>以下（1～3）について説明を頂いた。</p> <p>1. 自動運転バス実用化の背景 ⇒ ・ 社内提案募集において採用 ・ 移動弱者への対応（公共交通機関の見直し） バス運転手の減少、免許返納者の増加 など ・ 100年に一度の変革（電気自動車の開発、自動運転技術） 安全に運転する仕組み：（LiDAR）歩行者と距離を検知＋人工衛星、遠隔監視の技術</p> <p>2. 事例 ⇒ ・ 羽田イノベーションシティ：移動弱者への対応から国交省のサポート（規制緩和） ⇒ ・ 茨城県境町：地域住民に受け入れられ普及している 町民の無償協力（民有地のバス停設置）、子どもの利用多い、「横に動くエレベーター」 町民が町民に向けて情報発信（インスタグラム）</p> <p>3. まちづくりへの貢献 ⇒ ・ ボードリーの事業内容（車両選定・メーカー交渉、Dispatcher、ローカライズ、人材育成） ・ 実用化とは（生活の役に立つこと、持続可能であること（技術、法律、資金、環境）） ・ まちづくりへの貢献（位置情報の活用、バス停、実走速度を考慮） ・ クルマ・社会 パートナリシップ大賞受賞「バスがまた、通るようになったから」 https://www.youtube.com/watch?v=jbSFLivQ3hE</p>		
意見交換	<p>参加者の質問等から講師の解説、意見交換を行った。</p> <p>● 境町での契機、普及（バス停の無償提供（要因））について ⇒ ・ 町長からオファー（各地での実証実験をニュースから知った）、予算化（5.2億円） ・ 町民が公共交通の必要性を感じていたから協力が得られた</p> <p>● 運営費について ⇒ ・ 初期 2.6億円、ランニング 2.5億円 全額捻出可能（交付金、ふるさと納税など）毎年単発の施策（財源）が何らかある 境町は、ふるさと納税を活用（活用できていない自治体多い）</p> <p>● 地元住民を惹きつける合意形成（アプローチの仕方） ⇒ ・ アプローチの「型」はないが、パターン化できている うまくいかない理由を検証する（人的な理由が多い） アナログを大事にする（（反対）意見を示す人を大事にする）</p> <p>● 市街地整備で自動運転（GPS 環境による影響） ⇒ ・ 事前に周波数を確認（一般的な周波数を使用）</p> <p>● まちづくりへの期待、要望 ⇒ ・ 車両よりも街にセンサーを設置したほうが安全に運行可能</p> <p>● ボードリー概要（動画集など） https://www.softbank.jp/drive/</p>		
記録者の ひとこと	<p>境町の町民に自動運転バスが生活の一部として浸透している状況を知ることができた。少子高齢化、コロナ禍による公共交通の存続が危ぶまれている社会情勢下で明るい話題と受け止めた。 ≪都市懇サロン運営部会 委員 今井 重行≫</p>		

